

西表の大魔人ヒゲさんひきいる水落の滝ツア-

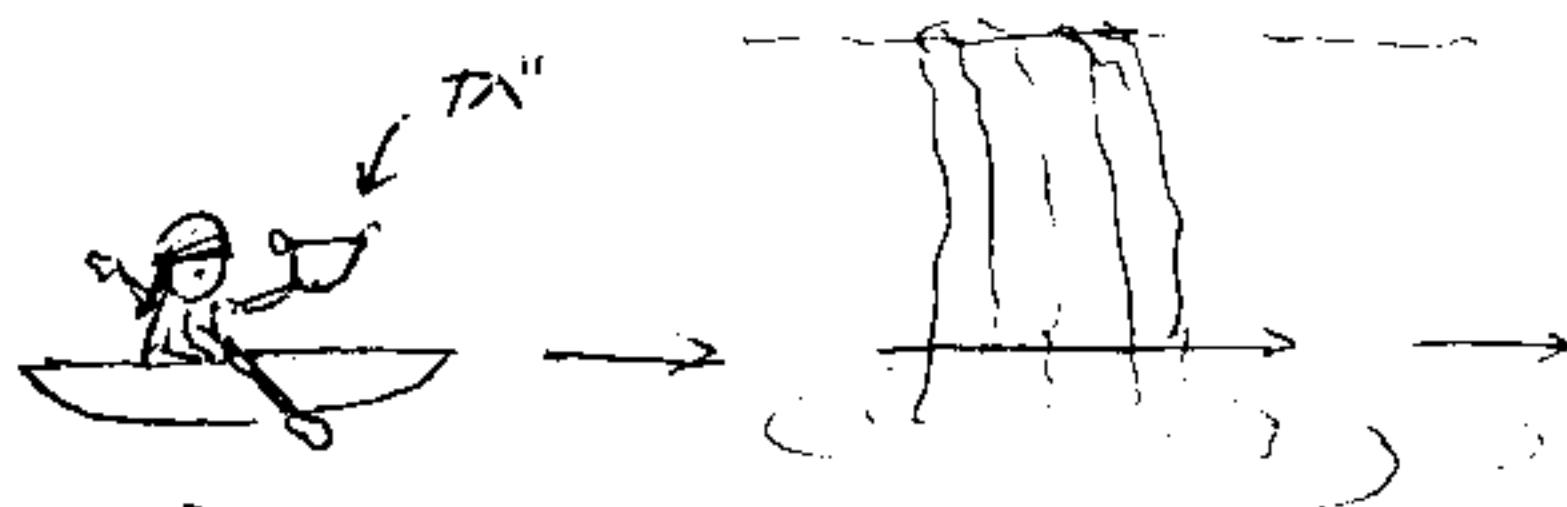
198.12.26 by 中川洋子

またまたや、こ来ました。村田自然塾・シーカヤックツア-

女性5人 プラス ヒゲさんの6人で、自浜から出発。ひとり「初めてカヌーをこぐんですけど」と言つておられた女性が、こいこもこいこもあまり進まず、うしろからヒゲさんがカヌーをつけ、「ハドウしが水とかじりつけば…」、「ブレードの角度が悪い！」と叱りつけた。私はその人が「クーンと立ちながら帰る」というのを…と思はずに配しましたが、その人はヒゲさんの しうちにもメグす「笑顔でセーリング自分のペースで」こいでおられました。

1回途中休憩をと、国際避難港の話や西表の炭坑のことなどと聞いたあと、いよいよ水落の滝へ。ここまで結構順調で「なーんや、今回は書くことないなあ」という感じだったのですが…

水落の滝に着いた時、ヒゲさんが1人の女性にナベを渡し、「こりて滝の水をくんできて」とばれて見ていた私に女性は困ったように「えー、！ でもさかなんや…」と言つたのです。思わず「や、あけましまうか」と言つてしまひました。御存知のように水落の滝は5メートルくらいの高さの滝で、11につづく滝壺に直接落ちており、そこを見つけて「カヌーで近づけないで、手を伸ばさずナベに水を受ければいいや」と思ったのですが…。 どう簡単ではありませんでした。まず、水の落下降下には下には水の勢いでなかなか近づけず、また近づいてすぐ離され流れてしまうのです。そこで、は方なく滝に平行に横から近づいて、水を受けながら通り抜ける— という方法に変えました。



決死の覚悟でチャレンジした私。この方法の弱点は、自分で意外に水をかぶるということです。そして頭からしつこくオタオタたらしから水の入ったナベを差し出した私はヒゲさんは、「ありがとうございます。あれ、これやたら少ないよ。ナベに半分くらいしか入らないやないか。もう1回行ってきて。」 ガーン。
涙目にばかりながら私は、「水がないから、ゴハンか」(笑れい。)と思つ、もう1回滝の下をくぐり、今度こそセミヨビショにばかりながら水をくんできました。(それでもナベに目一杯。)

その姿を見たヒゲさんは、「あ～あ、びしょぬれやなあ。カッパでも貸とか。
くもう、おさいいちゅうねん。今さら。」

私は陸に上がり、三河童のようにポタポタ水を全身からたらしながら、タオルを
頭からかぶり、ヤッケを着て、それで「寒い」。さらにヤッケを重ね、下にもトレハイ
をはきました。……しかし、滝からは冷たい風と水しぶきがピューピュー吹きつけ
… ガタガタ震えました。ようやく湯もわき、サンドイッチも2枚、パンにカツアソビ
は私の顔をふと見た吉野さんか」「洋子さん…すごい…唇が紫色…」

タオル タオルからのどく顔をみんない次々とのぞき込み、「本当！顔色も
青いよー あ、鳥肌も立てる…」と。本当に手にはオロシボンと
鳥肌…みんなそれを見て驚きました。ヒゲさんはゲラゲラ笑ひながら、
「これで凍死したら、西表初の凍死者やなあ。すごいニュースにならう。」と
喜んでいましたが、みんなが口々に「これで死んだら、『村田自然塾』のカヌー^ア
ツアー中に凍死者！滝の水をくませるミゴキ！」と評判にならうよ。」と言うのを
聞いて、顔色が変わり、コロッと態度を変えて、「大丈夫か。死ひますよ。
もしのライフジャケット貸しました。これ着とけ。」と わざわざ自分のライフジャケットを
脱いで貸してくれたのです…。

そして、このあと、実はヒゲさんのカヌーに水をつんびきをいたといふことがわかり、
何のために私はあんな思いをして…と空しい風が心の中をピューッと吹きすむ
でいました。ヒゲさんはこの事実にさらに追いつかなければように、「実はな、
前にも客に水くめゆるやうたのに、誰もくまなかっ。仕方ないから ワシが
そこの滝でくんびズブぬれになつたことあるんだ。」冷たいから、今度は、
別のヤツにやらとと想ひ、このたまわったのでした。

この言葉を聞いて、みんな(わたしも)心の中で、「なんちゅうやつや」と思った
ことは言うまでもありません。(しかし、みんなは、「みんなのために自分がズブぬれ
になつても水くんでくれた人」として感謝してくれたのです。私は救われました。
それには、川に出たら、日ざしが暖かくて風も弱かったのです。私の顔色は元に戻った
でした。

このあと舟浮の部落に寄りましたが、ヒゲさんはドントン人の家にモ入ってきました。
そしてそこの人、コーヒーを二つ作りましたのはいいのですが、「漁で5メートルくらい
あるサメを見た。」「よくサメを見ます」と池田さんか、サメ山崎さんとサメを見たことがあります
しておとづしたのです。帰り 内離島のみたりをござります、ついでスリルしかりあつたので
した。 4月24日